



令和6年度

大江町
地域おこし協力隊
活動報告書



春山 瑞季

出身地：長野県富士見町
着任：令和4年4月

協力隊に着任してから遂に3年目になりました！大江町に出会ってからは早7年。人生の三分の一の間、大江町に関わらせてもらったことを大変嬉しく思っています。長野県で生まれ育ち、大学進学を機に山形へ越してきた時には、こんな素敵な未来は描けていませんでした。「ああ、この町が好きだ！」と何度も思ってきました。大江町は第二の故郷です。育ててくださり、本当にありがとうございました。

-Profile-

1999年5月12日生まれ

東北芸術工科大学デザイン工学部コミュニティデザイン学科卒業

大学卒業後新卒で大江町地域おこし協力隊に着任
地域振興課地域交流係所属

社会教育士

好きな大江の食べ物：

かきたまラーメン、真麻うどん、すもも、地鶏の親子丼

大江町での一番の思い出：

恩師や友人を招いて大江の花火大会を見たこと

どうして、大江町の地域おこし協力隊が 県立の左沢高校をサポートするのか？

県立の高校に町職員である地域おこし協力隊がサポートを行っている構造に疑問を持つ方もいらっしゃるかと思います。左沢高校は創立以来「地域に根ざした左高生」をスローガンに地元地域を担う人材の育成と輩出を行ってきました。そんな左沢高校は、少子化の流れとともに、入学者数が減少し、令和6年度現在では、募集定員40名の1クラス制になり、全校生徒は97名です。このまま手を打たずになりゆきの未来を受け入れると、左沢高校は廃校または分校となり、大江町の人口流出は加速することが予想されます。また、左沢線の廃線や高校生世代の人口流出による経済損失なども見込まれます。

また、町外から通う高校生たちは大江町の関係人口であり、左沢高校の在校生たちは未来の関係・定住人口とも言えます。高校時代を過ごした大江町に愛着を持ってもらい、卒業後も関わり続けてもらえるように、左沢高校が実施する「地域に開かれた教育課程」を応援します。

左沢高校2年次「課題探究I」へのサポート

山形県立左沢高校では、2年次になると「課題探究I」という名称の総合的な探究の時間に取り組みます。左沢高校の“探究”は、地域課題を発見し、その課題に対して実際に解決のためのアイデアを生徒自身が提案・実践することを目指しています。今年度で5年目となるため、さらに生徒の学びを増やしていくことを目指して、探究する地域を大江町のみならず西川町、朝日町、寒河江市の1市3町に拡大しました。生徒たちはそれぞれのフィールドで調査やアクションの実践を行っていきます。

探究を車に例えると、車を走らせるためのエンジンは生徒の想い。そしてエンジンをかける燃料（＝ガソリン）は地域住民皆様の想い。それらを繋げる装置は教員たちが作るカリキュラムや伴走だと思っています。この3つが合わさることで探究の車は走り出すと考えています。そのため、生徒の想いを強くするため、活動できるフィールドを広げたり、各自治体の地域おこし協力隊や職員の皆様の協力のもと、高校生に知ってもらいたい地域の現状をお話していただきました。その他にも、今年度からは探究学習が始まる前の準備運動として、外部講師をお呼びしてワークショップを行い、生徒が主体性を持って取り組めるように工夫しました。

また、地域住民の皆様の想いを生徒のエンジンに届けるために、要所要所で地域の方に授業に参加していただき、生の声や適切なアドバイスを頂戴するなど、結び目を強くするための時間を設けました。そして、12月に行われ

た探究最終発表会には、探究活動でお世話になった方々や、来賓をご招待し、かつ一般来場を呼びかけたところ、地域住民の皆様、約 50 名の方々にお越しいただく結果となりました。引き続き、左沢高校ならびに探究活動へのご支援とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

そのような形で探究活動を進め、今年度は以下のアクションが生まれました。(表1) もう少し内容を深められた班もあったと反省していますが、どの班も多角的に地域を捉え、その中で自分たちの興味関心に合わせてアクションを実施できたことを嬉しく思います。また、生徒たちの成長を見ると探究が始まる4月にとったアンケートと探究活動を行った後の12月にとったアンケートを比べると、「探究活動を通して問題発見、解決能力が身についた」という項目では、「とても思う」の項目が7.3%増加しました。加えて「探究活動を通してチャレンジ精神が身についた」という項目では「とても思う」の項目が8.9%増加しています。その他にも成長を感じている割合が増えており、このような変化から探究活動の効果を実感しています。今後はこれまでの探究活動を引き続き継続していくとともに、本当の地域貢献になるように深化していったと欲しと願っています。

報告書文頭にて、どうして県立の高校に協力隊が入るのかをご説明させていただきました。この活動は必ず、大江町や西村山郡の力になると信じています。その成果が見えてくるまでには少し時間がかかりますので、長くお付き合いいただければと思います。ここで蒔いた種が芽を出す時を楽しみにしています。一緒に見つめてくだされば幸いです。



表 1

班	分野	地域	内容
1	歴史文化	寒河江	寒河江の歴史や文化的建造物などを調査し Instagram 投稿とリーフレットにまとめる
2	農	大江	最高の果樹農家を広めるため、若手果樹農家を取材・発信（リアル動画）
3	暮らし	大江	大江町の魅力を詰め込んだ Instagram の運用と高校生がガイドする町歩きツアーの開催
4		西川	高校生が行きたくなる西川町のスポットや企画を探し、Instagram で発信
5		朝日	朝日町道の駅りんごの森と新商品を開発、販売の手伝い
6	福祉教育	大江	保育士の現状の調査と保育士不足が起きる原因の究明
7		西川	小さなお子さんを持つママ・パパの不安解消プログラムの実施

左沢高校魅力化

左沢高校の魅力を磨き、今後の存続に繋げるために、左沢高校に係る魅力化協議会が今年度より立ち上がり、その下部組織となる実務者会議に参画しています。左沢高校の生き残りをかけて、今後どのようなブランディングやプロモーションを行っていくか、どんな魅力的な事業を行っていくのかを企画し、実施していきます。

今年度は高校に望むことや、在校生の満足度等を調査するため、左沢高校と大江中学校の在校生とその保護者にアンケート調査を行いました。ご協力をいただきありがとうございました。

また、大江町は左沢高校支援事業として、今年度は JR 左沢線の定期券の半額補助や資格取得費用の半額補助を実施しています。上記アンケート調査はこのような支援事業の充実化にも活用していきます。



左沢高校の HPはこちら

キッカケ書店

昨年度から引き続き、10代のための古本屋「キッカケ書店」を今年度も実施しました。対象である10代のお客さんをあまり呼び込むことができなかったこと



は残念ですが、お子さんやお孫さんに向けて本を購入してくださる方もいらっしゃり、大変嬉しかったです。

寄付いただいた古本の活用などをしっかりと行い、幕を閉じたいと思います。本を寄付していただいた皆さん、キッカケ書店へ足を運んでくださった皆さん、ありがとうございました。

本当に本当にありがとうございました！

今年度で協力隊としての任期が満了となります。この3年間、本当にありがとうございました。3年間を通して、未来の大江町の移住・定住・関係人口をどうつくっていくか考え、特に高校生に焦点を当てた活動を行ってきました。なかなか自分の思っていることを成し遂げられなかったり、関係者各位にご迷惑をおかけしたりとご心配をおかけしたことも多々あったかと思いますが、町民の皆様が見守り、応援してくださったからこそ3年間、活動することができました。重ねて感謝申し上げます。

大江町が第二の故郷です。また皆様と元気な姿で会えることを楽しみにしております。



神保 南

出身地：群馬県前橋市
着任：令和5年4月～

私は群馬県前橋市出身で、大学進学を機に栃木県宇都宮市へ移住し、その後就職しました。大江町に来るきっかけは、「おためし地域おこし協力隊」という2泊3日のイベントに参加したことです。このイベントでは、大江町の方々との交流や自然体験、協力隊制度の説明が行われ、自然に関わる仕事をしたいという思いがあった私には、大江町はとても魅力的な町に感じたことを覚えています。その後、地域おこし協力隊として着任し、「大江町山里交流館やまさあべ」を拠点に現在活動しております。ここでは主に小学生やファミリー向けのイベント企画・運営に携わっており、今年度で活動2年目になります。

生きものの講座開講

やまさあべでは今年度、新たな取り組みとして『散歩中に子や孫に「へえ!」と言われるための生きもの講座』を開講しました。大江町に住む大人向けの生き物講座で、全5回のシリーズとして開催され、私はその中で9月と10月の2回を担当しました。

9月の講座のテーマは「秋の虫」でした。赤とんぼの生態や秋に鳴く虫について、2つのトピックを中心にお話しました。講座の後半では屋外に出て、実際に生き物を探す時間を設け、身近な自然を直接感じていただきました。10月の講座のテーマは「野鳥」でした。「野鳥とは何か」「どんな野鳥がいるのか」「どんな場所で観察できるのか」についてお話しました。この講座では、私の趣味であるバードウォッチング中に撮影した野鳥の写真を紹介しながら、その魅力を伝えました。

この2回の講座を通じて、私自身も自然についての知識をさらに深めることができ、今後の活動に活かせるような経験となりました。この講座をきっかけに、より多くの方が自然に興味を持ち、大江町の新たな魅力を発見する機会を提供できればと感じています。



他施設の視察

夏の繁忙期が過ぎた頃、宮城県石巻市にある体験型複合施設「モリウミアス」へ視察に行きました。この施設は、廃校となった建物を活用した体験型複合施設で、「暮らし」をテーマに、子どもから大人まで幅広い体験プログラムを提供しています。特に関東圏（主に東京）からの利用者が多い点が特徴で、東京から遠く離れた地にもかかわらず、多くの利用者を引きつける施設の魅力や運営方法を



学びたいと考えました。そこで、6泊7日の小学生向けイベントにボランティアスタッフとして参加しました。

このイベントには20名の小学生が参加し、海水浴や魚釣り、山での間伐、竹工作、地元の工芸品づくりなど、多彩な体験が用意されていました。どの体験にも、「暮らし」というテーマがしっかりと反映されており、プログラムの中で自然とその意義が伝わるような工夫がなされていました。また、参加者同士が自然にコミュニケーションを取ったり、助け合ったりできるよう、スタッフがさりげなくサポートしている点にも強いこだわりを感じました。このような「子どもたちとの関わり方」は、単なるレジャー施設ではなく、教育施設としての理念が反映されたものだと感じました。今回の視察では、イベントの運営体制や企画内容など、今後の活動に取り入れられるアイデアが多く得られました。また、「やまさあべ」と他施設を比較することで、自施設の強みや弱みについても新たな気づきを得ることができました。特に大きかったのは、単に話を聞くだけでなく、実際にイベント運営に携わることで、現場のリアルな視点から学べたことです。これらの学びを今後の活動に活かすため、引き続き他施設の情報にも目を向け、アンテナを広く持ちながら新たな挑戦を続けていきたいと思っています。

イベント企画

今年度は、さらに多くのイベント企画・運営を担当させていただく機会がありました。山菜採りのガイド、夏のリパートレッキング、キャンプイベントなどを通じて、自分で一からイベントを組み立てる楽しさと難しさを改めて実感した1年でした。

普段、やまさあべでは小学校1～6年生を対象に自然体験や宿泊イベントを企画していますが、中学生になるとボ



ランティアスタッフとしての活動が中心となり、参加者としての体験が少なくなる点に課題を感じていました。そこで、今年新たに企画したのが、小学校5年生から中学3年生を対象とした「あしあとキャンプ」というキャンプイベントです。

このイベントでは、テント泊を中心に、竹の伐採や斧を使った薪割りといった、高学年だからこそ挑戦できる体験を盛り込みました。また、前述の「モリウミナス」での活動の中で得られたものを反映し、子どもたちに自然との深い関わりや自分たちで暮らしを作る楽しさを感じてもらえるよう工夫しました。



しかし、反省点もありました。集客面では20名程度を見込んでいたものの、実際には5名しか集まらず、開催人数ギリギリの状況でした。主な原因として、イベントの開催時期がスポーツクラブや部活動の大会時期と重なったことが挙げられます。この経験を通じて、ターゲット層に適した時期の設定がイベントの成功においていかに重要かを改めて痛感しました。今回の挑戦と反省を次の企画に活かし、より多くの子どものために魅力的な体験を届けられるよう取り組んでいきたいと思っています。

おためし地域おこし協力隊

私が大江町に来るきっかけとなった「おためし地域おこし協力隊」ですが、昨年度に引き続き、今年度も担当者として活動しました。今年度は東京都から5名、神奈川県から1名、千葉県から1名、宮城県から1名、山形県から1名の計9名が大江町を訪れました。

2泊～3泊の日程では、農業体験や食体験といったイベント運営に携わっていただいたほか、今年新たにオープンした「道の駅おおえ」を含む町内観光スポット巡りを実施しました。参加者の皆さんには、大江町の自然や文化に触れる時間を楽しんでいただけたようで、「またぜひ大江町に訪れたい」「協力隊に興味を湧いた」といった嬉しい感想をいただきました。このような活動を通じて、参加者到大江町の魅力を伝えられるとともに、地域おこし協力隊に関心を持ってもらえる機会を提供できたことは、大変意義のある取り組みだったと感じています。



堀内 愛

出身地：静岡県浜松市
着任：令和5年4月

温暖な静岡県で生まれ育ち、雪が積もる経験のないまま家族4人で移住しました。

周りのみなさんにいろいろなことを教わりながら、元気な息子2人の育児に日々奮闘中です。

経歴

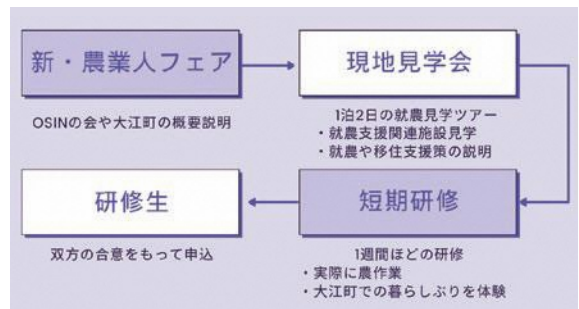
- ・大学は京都で考古学を専攻
- ・ホテル旅館業でのフロントや広報業務経験あり
- ・IT会社でのメールマガジンディレクター・WEB サイト運用業務経験あり

息子たちの成長に伴い、少しずつ町内のイベントにも参加できるようになってきました！

私のミッションは「新規就農支援」で、大江町就農研修生受入協議会 (OSIN の会) の活動・運営に関わることが多いですが、内容は大きく分けると、就農希望者を受け入れるための活動と、OSIN の会の認知度を上げる情報発信があります。

新規就農希望者が絶えない環境を

OSIN の会では下記の受け入れフローがあるので、この流れに乗ってもらうように活動をしています。



始まりの新・農業人フェアには今年度2回参加し、事前の準備から当日はブースへのスカウトを行いました。山形は首都圏から少し離れていることや、雪国ということで足が遠のきがちですが、会場に貼り出す PR シートや、勧誘の際に配るチラシなど、大江町や OSIN の会の魅力が伝わるように作成しました。自身の経験も伝えることで興味を持っていただき、ブースに案内することができました。中にはチラシが気になったと声をかけてくださる方もおり、反応を肌で感じられて嬉しかったです。

また、今年はフェア

以外にも個別に問い合わせをいただくことが多く、事務局長と協力し WEB 面談を始めました。短期研修へとつながる確率も高い有効な手段ですので、今後も続けていきたいです。

次の段階の見学会と短期研修には延べ 19 名にお越しいただき、前後の相談・手続きや町の案内などを担いました。



緊張しながら大江町に来られる方がほとんどなので、和やかな雰囲気を心がけ、会話がしやすいように努めています。農業のことから暮らし



のことなど、多岐にわたる質問を受けますが、農家さんたちから教わったことや体験談を交えて、丁寧にお答えしています。

今年度も2組3名が移住見込みで、「研修生がいて独立就農していく」という流れを繋げられて嬉しく思います。今後も周りのみなさんと協力して、新規就農者を積極的に呼び込んでいきたいと思っています。

会や町を広く知ってもらうために

インターネットでの情報発信やチラシなどのPR物の作成を行いました。

情報発信では露出数を増やすために、OSINの会や農業関連のサイトだけではなく、今年からは町の公式サイトへの掲載も始めました。

一般の方の認知度を上げたい思いから始めたInstagramでは動画投稿に力を入れ、多いものは28万回以上再生されています。農業の面白さや、メンバーの温かさが伝わるといいなと考えているので、ただ撮影するだけでなく、いい表情や自分の心も動く瞬間をとらえる様に心がけています。投稿頻度も昨年より高くし、フォロワーが当初の目標を超え、600名近くになりました。



今年度はインターネット上で、OSINの会を見かけたお問い合わせを受けることが数回あったり、撮り溜めた写真がOSINの会の新パンフレットに使われたりと、これまで取り組んできた活動の成果が感じられる一年でした。

また、新しくなった「道の駅おおえ」にも新規就農者コーナーが設置され、地域おこし協力隊の春山さんと共同で



ポップを作成しました。視察受け入れや見学の際に案内することも多く、目印になるものができてよかったと思っています。「道の駅おおえ」にお出かけの際は、ぜひご覧ください。

地域おこし協力隊として

今年は他隊員のイベントや、町・県主催の講座などにも多く参加しました。体験もそうですが、今まで接点の無かった方たちと繋がることは、様々な刺激がありました。中でも若者や子育て世代の方々が理想の暮らしを語りあう「おおえぐらしダイアログ」に参加したことは、自身の理想の暮らし・町の在り方や価値観の多様性を再認識する大きなきっかけになりました。



また移住経験者として、話をする機会も複数回ありました。気候も文化も違う土地で暮らすことはいろいろな問題がありますが、周りのみなさんのおかげで乗り越えることができています。大江町民の人柄や町への溶け込みやすさを伝えるのはもちろん、全国でも大江町のような移住者受け入れマインドが広がるといいなと思います。今後も積極的に取材を受け、話をする機会を増やしていきます。

大江町での暮らしを楽しむ

就農はもちろん、移住の窓口として、周りの方々と協力しながら、絶えず研修生がいる環境をつくる一員であり続けたいです。

また地方ならではの豊かな暮らしを私自身も満喫し、実感を持って発信していきます。



OSINの会の
Instagramはこちら



田中 陽平

出身地：東京都
着 任：令和6年4月～

東京生まれの48歳、関東圏で27年間会社員生活を続け、24年の4月に大江町に移住してきました。

20歳から新聞社の新聞印刷を行う部署で輪転機を運転する仕事を9年間、その後29歳からIT業界に転職し、2つの会社でプログラマー、システムエンジニア、プロジェクトマネージャーなどを経験しました。

20歳から働き始めて20年が経った40歳前後に、会社員として働き定年を迎えるということに違和感を持ち始め、それでも決断できないまま7年が過ぎた2023年、池袋で開催された「新・農業人フェア」で大江町役場とOSINの会の方々と出会い、農家となり大江町で暮らす決意をし、移住を決断しました。

地域おこし協力隊でのタスクは「新規就農者」になることです。

東京都外に親戚はおらず、農家をしているような知り合いもいないため、農業を経験するのも初体験です。

2026年の新規就農を目指し、引き続き活動をしてきます。

就農への第一歩 4月～6月

デスクワークに20年近く従事していた体を「農家の体」にしていきます。

また、果樹農家としての基礎知識や作業に必要な機械類の知識や使い方も学んでいきました。

すももの人口受粉作業や桃の剪定作業、新しい苗木を植えるための抜根作業、草刈り作業など、人生で経験したことのない農家の仕事を経験していきました。

受入農家の方も丁寧に説明してくださり、作業方法も教えていただけたので、少しずつ学んでいきました。



丁寧に教えていただいているにも関わらず、とにかく機械操作への恐怖心がなかなか取れませんでした。

雑草の草刈りで刈払機、抜根でチェーンソーを使用しますが、刈払機、チェーンソーはエンジンが体の近くにあり、刃物が近くで回っているさまは恐怖でしかありませんでした。

桃、ラ・フランス、すもも、りんごの摘果作業も経験しました。

果樹、ひいてはその枝々に生らせる果実の量を調整し適切な大きさにするために、生ったばかりの小さな果実を計画的に摘んでいきます。



果実の収穫（主にすもも収穫・桃収穫・ラ・フランス収穫）7月～10月

とにかく収穫、パック詰め、箱詰め、出荷の4ヶ月でした。他農家さんのさくらんぼの収穫お手伝いから始まり、すもも、桃、ラ・フランスと収穫・出荷作業が続きました。



さくらんぼは、紅さやか、佐藤錦。すももは、大石

早生、ソルダム、太陽、秋姫、マーキュリー、サンセプト、サンルージュ、愛李、プルート。

桃は、まどか、あかつきと、様々な果物の品種を収穫しました。

すもものピーク時は朝は5時から夜 22 時まで作業をします。もちろん途中で休憩はあります。

午前中は収穫し、気温が上がってきたらバック詰め、箱詰め、夕方にまた収穫して、夜にバック詰め、箱詰め。この時期は、身体的にも精神的にもかなり疲弊しました。長年続けている農家さんでも疲弊するようです。

冬と春の剪定や消毒作業、肥料やりの総決算として収穫があるわけで、ここでしっかりとした収益を上げないといけません。

どんなに疲弊した状態でもやり切る精神力、そのような状態でも、品質を見極め消費者に届ける冷静さ、作業を継続できる体力が、農家になるためには必須の能力であるということを感じました。



自分の畑を持つ 11月

活動の合間に、自分の畑を持つ計画も同時進行しました。全くわからない状態で受入農家さんやベテランの農家さんの力を借りて、借りられる畑を4月中旬くらいから探し始めました。

早く借りることができて苗木をその分はやく植えられれば、収穫も早くなるわけで、悪いことではないのですが、最初は畑を借りる手順などの理解が追いつかず、また移住して2ヶ月、3ヶ月で決めていくスピード感にもついていけずに、何かなんだかわからずに動くのが必死でもあり苦痛でもありました。

ただし、その後、地権者の方にご挨拶したり、草刈りをするうちに、ここで果樹農家をやっていくんだという実感が少しずつ湧いてきました。

10 月の下旬から OSIN の会の会長にショベルカーでの整地作業をしていただきました。

私の畑は、10 年以上耕作放棄地になっていたような場所、雑木や放置された果樹がそのままになっていた、それこそ 10 年以上、雑草が生い茂っては枯れ、また生い茂りを繰り返した堆積ですごい状態になっていました。最初の刈払い機での作業は道を作るだけでも1週間かかりましたが、会長の



ショベルカーではほぼ3日で6反歩程度の土地が更地になりました。

その後、細かな調整をしていただき、1週間程度で整地は完了しました。



12 月上旬、注文していたすももの苗木が届き苗木植えを行いました。

冬支度と剪定 12月～3月

12 月からは冬支度が始まりました。

機械の清掃と格納、果樹の雪囲い、剪定と続きます。

12 月下旬には他の農家さんの啓翁桜の出荷を手伝ってもらいました。

暖かい場所に保存したり、寒いところに置いたりを出荷時期を計算しながら実施し、樹から枝を切り落として長さを調整し、束にします。

花きも収益源の選択枝としてあることもわかりました。

1月からはすももの剪定を中心に作業します。

1年目の総括と2年目の展望



厳しさの中にも優しさあふれる指導をしてくださった受入農家の方やサポートしてくださる他の農家の方々のおかげで、なんとか1年間をやり抜くことができました。

1年目は、とにかく分からないことだらけで、受入農家の方についていくことで精一杯でした。

農家とは、果樹栽培とは、機械の取り扱い、東京都との気候の違い、デスクワークから屋外での労働へ。

すべてが変化し、カルチャーショックを受けつつ、自分で選んだ道に食らいついていけただけでした。

2年目は、この1年目の経験を糧にして、3年目の就農を見据えながら、受入農家さんの作業を吸収して、1人前の農家になれるような下地を作っていきたいと考えています。

「新規就農を目指す」ということをミッションに据えた人物を、地域おこし協力隊として受け入れてくれた大江町の皆さんに感謝しつつ、今から見て1年後、2年後に笑顔で皆さんに頑張っている姿をお見せできるよう、年齢に関係なく、成長した姿を見せられるように頑張っていきたいと思います。



宮西 優輔

出身地：東京都
着任：令和6年9月～

東京都出身、大学は青森県に進学しました。その後青森県内で就職し、令和6年9月に大江町にやってきました。

私は、幼少期から鉄道が好きです。小学生の時は、紙の時刻表や旅行商品のパンフレットを眺める機会が多かったです。そんな時、「左沢」「寒河江」といった、難読駅名が続く左沢線を見て強く印象が残っている記憶があります。

そして令和6年夏、地域おこし協力隊を検索していると、大江町の JR 左沢線担当の地域おこし協力隊の募集に目が留まりました。JR 路線を沿線自治体が地域おこし協力隊を設置することは非常に珍しく、大江町の左沢線に対する熱量に感銘を受けました。私自身、「鉄道が好き」という思いだけでなく、地域にとって鉄道は重要な財産であると考えています。「左沢線」という、『まち』の名前がついているこの路線を未来に残していけるよう、お役に立てたらと思っています。

SNSやザワ線通信で 左沢線の情報を発信

着任後、左沢線の知名度向上、町民の皆様へ左沢線を盛り上げる地域おこし協力隊の活動を知っていただきたいと思い、各種 SNS のアカウントを設立しました。

SNS では、左沢線やその他鉄道に関する画像や動画、協力隊の活動の様子などを発信しています。また、デジタルが得意でない方にも左沢線に関する情報をお届けしたい、地域おこし協力隊の活動を知っていただきたいと思い、令和6年12月にはザワ線通信を創刊しました。回覧として、町民の皆様へ3か月に1度、目にする機会があると思います。ぜひ、ご覧ください。

各種 SNS アカウントのフォローも引き続きよろしくお願いします！



ザワ線でGO!!の
Instagramはこちら



ザワ線でGO!!の
X(旧Twitter)はこちら

左沢線日帰りツアー (ミニ町民号の旅)

左沢線利用促進を目的とし、令和6年11月7日(木)に「大江町誕生65周年記念!左沢線で行くヤマガタダイカイギウ化石見学ツアー」を開催しました。

開催するにあたり、事前に山形県立博物館との打ち合わせや当日案内する経路の下見を行い、当日の引率に備えました。

ツアー当日は、とても寒い日ではありましたが、16名の町民の皆様にご参加いただきました。ここで、今回実施したツアーの行程を簡単にご紹介したいと思います。参加者

は、8時30分に左沢駅に集合し、出発式を行ったあと、8時50分発の列車に乗車し、山形駅まで向かいました。山形駅到着後、県民ホールにて「やまがたみんなの写真展」を見学し、ホテルメトロポリタン山形最上亭にて昼食をいただきました。昼食後は、霞城公園内にある、山形県立博物館に向かいました。博物館では、企画展として開催されていた「東北の自然史大図鑑」を見学しました。同企画展は、大江町用地区で発見された「ヤマガタダイカイギュウ」の化石（実物）が6年ぶりに公開されていました。私含め、参加者のほとんどは、実物の化石を目にするのは初めてだったため、「ヤマガタダイカイギュウ」の大きさや骨のつくりを、学芸員の方から学ぶ良い機会になりました。

博物館見学後は、山形駅まで戻り駅ビルでお買い物の時間を設けました。夕方の列車は、通学の高校生で混雑しており、活気ある左沢線に揺られ、帰路につきました。

参加者の方からは、昔の町民号を懐かしむ声や継続して実施してほしいなど、お褒めの言葉をいただきました。次回、実施の際はさらに多くの方にご参加いただけるよう、魅力的なツアーになるよう心掛けたいと思います。

ワークショップの企画

地元の小学生に、左沢線へ親しみを持ってもらおうと、左沢線のペーパークラフトを使用したジオラマ作り教室を実施しました。



講師は、地域おこし協力隊インターンで大江町に滞在していた若月匠さん。若月さんは、ジオラマやプラモデルの制作に詳しく、個人で活動されるときは「ワカツキモケイ」として活動されています。



若月さんとの繋がりから、ジオラマ作り教室を放課後子ども教室の一環として開催することになりました。参加した児童は、ジオラマ作りに集中し、終始楽しそうに制作していました。また、製作した作品は、それぞれ個性があり唯一無二のジオラマを完成させることができました。

引き続き、左沢線に興味・関心を持ってもらえる企画を考えていきたいと思います。

左沢線座談会

令和6年12月17日（火）、まちづくり座談会 - 町長と語る会 - （JR左沢線利用促進について考えよう!）が開催されました。この座談会では、町長と普段左沢線を利用している高校生が、利用促進に向けて意見交換の場として、設けられました。私は、JR左沢線に対する大江町の主な取り組みについてパワーポイントを用いて発表しました。

その後の意見交換会では、参加した高校生が考えてきた利用促進の案を発表していただいた後、町長と活発な意見が交わされました。高校生利用者の目線で、左沢線を活性化、乗車促進の案を若者の意見を聞くことができ、私自身今後の活動の参考になりました。



やまがたあてらざわ 103 フェスに向けて

令和7年4月19日（土）20日（日）、開催の「やまがたあてらざわ 103 フェス」に向けて準備を進めています。左沢線の全線開通100周年から続く、毎年恒例のイベントになっています。

今回は、会場に設置するヘッドマークを町内の3～6年生にコンテスト形式でデザインを募集しました。優秀賞に選定された作品は当日会場で展示されます。また、ヘッドマークコンテストに応募された全作品を左沢線の車内に掲出されます。こちらもご覧ください。

また、イベント当日は鉄道古物の展示や鉄道クイズ大会など新企画を用意しています。キッチンカーブースには山形県内から厳選されたスイーツが盛りだくさん。

ぜひ、お越しください。



小角 さくら

出身地：山形県寒河江市
着任：令和6年12月

大江町のおとなりの寒河江市出身です。小学校の遠足で朝日少年自然の家に訪れるなど、幼いころから大江町に親しみがありました。東北芸術工科大学に通っていた時期は、コンテンツ企画・ゲーム制作・商業向け映像などを学び、授業課題の中でヤマガタダイカイギュウの企画を提案し映像作品を制作するなど、大江町との縁は続きました。

大学を卒業したのち、「田舎で経験できないような、特殊な内容の仕事に就きたい!」と思い立ち単身上京、大手テーマパークでの仕事やこども写真館や振袖のレンタル業など、様々な職種を経験してきました。

13年ほど都会で生活をしていましたが、山形に帰省するたびに、四季で変わる自然の景色に心動かされ、空の広さと山々の美しさを再認識し、いつの間にか「地元に戻る」という選択肢ができました。

そして、昨年の夏に偶然訪れた大江町役場で、地域おこし協力隊の募集に会い「特技の写真を生かせる仕事!?! 運命的!」と思い。急いで応募をしました。

「空き家バンク」の担当として

私が担当する「空き家バンク」の主な活動は、バンク登録物件の撮影と紹介記事の作成、町のホームページのほか、Instagramでの掲載報告、空き家物件検索サイトへの登録作業などです。



OE LIFE_YAMAGATA

おおえぐらしの
Instagramはこちら



着任後、まず始めに町のホームページの空き家バンク紹介に、地区の場所がわかるようにカラー地図を作成し追加しました。他にもInstagramの投稿用に町の風景やイベントの写真を撮影し、反応の多いタグを使用するなど、各コンテンツを使用する方が大江町に対して興味を持っていただけのように工夫をしました。

また、空き家バンク登録物件の写真に関しても、前職のスキルを活かして撮影と編集を行い、現場の状況が分かりやすく、かつ見栄えの良い写真を作成しました。



私が子どもの頃は、三世帯で一軒家に住んでいる家庭が主流でした。しかし、昨今では少子化や、都心への人口流出に加え、各家族の構成も変化していて、地方では空き家が増加しています。

人の住まない古い建築物は、放っておくと、害虫・害獣の侵入や、犯罪に使用される危険性の他、劣化による倒壊の恐れもあります。

家や土地の所有者の財産を無駄にしないため。また、転入による町の人口増加の面でも、大切な業務です。

協力隊に着任してすぐに、バンク登録空き家の撮影があり、売り主の方から実際に部屋の用途や思い出などをお聞

きする機会がありました。そこには土地の歴史や家族のストーリーがありました。

そんな様々な思いがこめられた空き家を、本当に必要としている方に見つけてもらうために、自分の仕事に全力で取り組もう!と決心しました。

大江町のステキなところを知る

着任後半月が過ぎたある日、『ボランティアガイドの会』顧問の石川さんより、大江町の歴史についてお話を伺う機会がありました。

市町村合併で大江町になるまでの地区の歴史をはじめ、大江町の珍しい地名の由来や、神通溪の成り立ち、ふれあい会館(旧左沢小学校)の下にある防空壕のお話など…。どのお話も貴重なものでした。

その中で、私が特に興味を持ったのが、「NHK 連続ドラマ小説『おしん』の撮影協力について」でした。このお話を聞いたのがきっかけで、私も「おしん」を見始めました。



ドラマの中で、おしんが奉公に行くために最上川を筏で下るシーンは、心に残るものでした。年老いたおしんが、最上橋を眺めながら左澤での思い出を語るシーンも趣がありました。

視聴者にとってドラマの主人公と同じ場所に立てる『聖地』は、観光資源として非常に貴重です。多くの方々に大江町を知ってもらい、旅行などを通して地域の活性化、更には移住に繋がる筋道になります。

かくいう私自身も、漫画「釣りキチ三平」が好きで、大江町の協力隊に申し込む決め手になったのが「好きな作品の『聖地』だから」でした。(平成版シリーズにダイカイギウのお話があります!)



私は今後、東京都内をはじめ各所で開催される「移住促進セミナー」にも参加し、大江町の“ステキなところ”を全国的にPRしていきたいと思っています。

「Uターン者」としての経験を活かして



私は大学を卒業後「東北でやりたい仕事が見つからない…」という気持ちから上京しました。その時期は、「地元の良いところ」を考えても、特に思い浮かばなかったと思います。しかし、実際に故郷を離れ、都会で長期的に住んでみると、「山形って風景は綺麗だし、ご飯やお酒もおいしい、新幹線も空港もあるし、温泉もあるし、なにより気持ち落ち着くし、いいとこいっぱいあるじゃん!」と思うようになりました。

今では『離れて気づいた、故郷の良さ』を知っていることが、自分の強みだと思っています。

思い出の詰まった大切な家を手放される方、県内外からの移住を考えている方、これからも大江町に住み続けるために住まい変えを検討している方、これから「空き家バンク」を通して出会う様々な方の気持ちに寄り添い、自分自身の経験を活かして、懸け橋になればと思っています。



おためし 地域おこし協力隊

地域おこし協力隊に興味がある方に向けた短期滞在プログラムです。2泊3日以上の日程で地域おこし協力隊の活動を体験し、実際の活動の様子や制度を知ることができます。大江町では令和4年度から実施しています。期間中は大江町山里交流館やまさあーべに宿泊し、町内の施設を見学、協力隊の制度説明を受け、現役の協力隊員と一緒に活動しました。今年度は予定を超える9名の参加がありました。ほとんどが関東地方の若い年代の参加でした。



地域おこし協力隊 インターン

令和6年度は、2週間以上、3ヶ月以内の長期の体験ができる地域おこし協力隊インターンを受け入れました。

10月～12月まで活動した隊員の活動報告は次のとおりです。

地域おこし協力隊インターン

若月 匠

米沢市から参加

活動期間

令和6年10月～12月



拠点

「大江町まちなか交流館 ATERA」

まちなか交流館「ATERA」を拠点に、にぎわいづくりのテーマで活動しました。好きな模型づくりを活かし、ミニチュアのワークショップや展示を企画し、趣味でつながるにぎわいづくりに挑戦しました。拠点のまちなか交流館 ATERA 利用者の方々も温かい方ばかりで、気さくに話かけていただき、焦ることなく業務一つ一つを確実にこなしていくことができました。

「ATERA の模型展」の開催

若い年代の利用者増と趣味でつながる交流づくりのため、2Fホールを利用した模型展示イベントとワークショップを開催しました。



展示イベントは県内各地の14名から出展してもらい、さまざまなジャンルの作品が並びました。10月24日～27日の4日間で50名以上の来場がありました。26日には「ジオラマ制作体験会」も実施しました。

「ミニチュアづくり体験会」企画、開催

令和6年12月21日に、2Fホールでミニチュア制作ワークショップを開催。ATERAのカフェメニュー（コーヒーとクッキー）をミニチュアで再現し、作り方の体験とあわせて、メニューを知ってもらいたいと企画しました。小学生～大人まで6名にご参加いただきました。



地域おこし協力隊とは

平成 21 年に総務省がスタートさせた人口減少や高齢化が進む地域に都市住民が移り住み、地域力の維持と強化のため活動する取組みです。都市の住民にとっては、豊かな自然環境や歴史文化に恵まれた地方で生活し、地域社会に貢献できる機会を得ることができます。

令和5年度は全国 1,164 の自治体で、7,200 名の隊員が活動しました。

大江町は平成 25 年度に地域おこし協力隊の受け入れを開始。これまで 20 名の隊員が様々な分野で活動しました。現在は、募集にあわせて活動内容を設定する「ミッション型」で受け入れしています。地域振興から農業、教育分野まで分野ごとの各課所属で活動しています。

地域おこし協力隊はどの隊員も「大江町初心者」です。お会いする機会がございましたら気軽にお声がけいただき、温かくご指導賜りますようお願いいたします。



令和6年度 大江町地域おこし協力隊活動報告書
執 筆／春山瑞季、神保南、堀内愛、田中陽平、
宮西優輔、小角さくら、若月匠（インターン）

発 行／大江町地域振興課

〒990-1101 山形県西村山郡大江町大字左沢 882-1
TEL0237-84-1503